

今日の 話題

上海ロックダウン

長引く上海ロックダウンは市民生活、経済活動に多大な影響を与え、今後の状況が懸念されている。この問題についてとある上海市民にインタビューをした。

現在上海の小区（マンション）は、①封控区（外出不可）、②管控区（小区内の外出可）、③防範区（小区から外出可）に区分されている。5月上旬にて上海人口 2500 万人のうち、1700 万人は③防範区に区分され、一定の開放がなされているように見える。しかし大部分は実際には外出できない。これは区分上③防範区に指定されているものの、②管控区に「準じて」管理する、として外出が事実上禁止されている小区があるためである。

これを数字の操作と言うのは簡単であるが、このような実態には市政府の相当のプレッシャーが背景にあると考

えられる。

上海市では5月20日に陽性者ゼロを達成すべく、5月9日より5日間、個人・団体による食料調達を行政管理による配給に切り替え、更なる管理強化を開始した。これには疲弊している市民からの反発もあることは当然市政府も承知している。

インタビューした上海市民曰く、もちろん真に達成すればよいが、仮に未達でも防範区の例のように何らかの方法で調整され、結果20日には数字上は達成すると思う。しかし達成後にロックダウンが解除され、すぐに市民生活や仕事・会社が正常回復するとは考えにくい。

事実、上海市は17日にこれを達成したとしているが、市民生活の正常化は6月以降としている。強力なゼロコロナ政策を引く以上、数値的目標達成と現実とのギャップは今後も生じるだろう。我々も中国の情報操作と単純に切り捨てるのではなく、冷静な実態把握と、ある種の混乱・矛盾もあるだろう、と割り切ることも大切である。

5月4日には鄭州市もロックダウンとなり、北京市も厳しい雰囲気である。早い鎮静化を望むばかりである。

（金本勲相 BP アジアコンサルティング代表・公認会計士）